

## 平成 27 年度 森ノ宮医療大学卒業式訓示

卒業生の皆様、ご卒業、誠におめでとうございます。そして、御子様の学生生活を支えてこられたご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。また、本日の卒業式挙行にあたり、御来賓の皆様におかれましては、平素の当大学に対する御指導・御支援に感謝申し上げますとともに本日の御臨席まことにありがとうございます。

皆様は、森ノ宮医療大学での学生生活を終え、今、ここに、晴れの卒業式を迎えられました。様々な思いが皆様の胸を去来していることと思います。振り返れば4年前、この森ノ宮医療大学に入学された皆様は、まだまだ幼さの残る若者でしたが、優れた医療人を目指し、夢と希望に輝いていました。そして4年という月日の中で、優れた師から多くを学び、あるいは学友との様々な経験を通じて、人間としてあるいは医療人を目指す学生として大きく成長されたことと思います。本日、さらに輝きを増し、自信に満ちた皆様を見ることができたことは、誠に感無量であり、森ノ宮医療大学教員・職員一同の誇りでもあります。これからいよいよ、社会という大海原で、学びと経験の真価が問われます。皆様ならその荒波をしっかりと乗り越えていけると確信しております。

本日は保健医療学部 3 学科ならびに保健医療学研究科 合わせて 196 名が無事卒業されます。さらに、これらのうち、鍼灸学科スポーツ特修コースでは、教職課程を修了され、中高保健体育教員免許 1 種を取得された者が 5 名、看護学科では保健師免許の取得予定者が 11 名ございます。いずれも通常の授業に加え、さらに研鑽を積まれた結果であり、敬意を表したいと思います。

さて、これから皆様がかかわっていく医療の世界には、様々な問題・課題が山積しています。皆様もよく御存知であると思いますが、現在の日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎えており、この高齢化問題は抜本的な医療改革を必要とする極めて大きな社会問題です。認知症患者の増加、ADL や QOL に支障をきたした寝たきりや要介護者の増加は医療問題であると同時に、もはや社会問題でもあり、介護方法の改善・地域包括支援制度の充実など医療・福祉分野への期待と改革が求められています。この流れの中で、医療専門職の役割は極めて大きいものがあります。老年医学の発展により、健常な状態と要介護状態の中間の状態である“フレイル”という概念が近年浸透してきましたが、要介護に陥らないようにするため、このフレイル高齢者への介入が重要視されています。理学療法士は、このフレイル、あるいはロコモティブシンドロームにアプローチし、患者の ADL 維持・QOL 改善・介護予防の面で大きな役割を果たします。看護師もまた、高度な先進医療や急性期疾患はもちろんですが、フレイル・慢性期あるいは療養型病棟での高齢者ケアにおいて、極めて重要な役割を担うことでしょう。そして高齢者で増加するがん患者における疼痛緩和、あるいは終末期医療における患者 QOL の向上には、鍼灸師がその活躍が大いに期待されています。

このように、各医療職は、それぞれの特性・持ち味を生かし、患者そして社会に貢献することができますが、それだけではなく、近年では、それぞれの能力が相加的・相乗的に発揮されるチーム医療の重要性が叫ばれています。疾患に対する治療だけではなく、老化に伴う症状へのケア・社会的背景への配慮・QOL維持に重点が置かれる高齢者医療では、全人的医療・チーム医療が欠かせません。本学ではチーム医療の一翼を担える医療人育成に力点を置いてきました。本学の特徴である“学科を超えた学び“を経験した皆様は、他医療職種への理解も深く、チーム医療においても即戦力となり、必ずやリーダーシップをもってチーム医療をけん引する人材として活躍してくれるものと期待しております。自信を持って、そして、これからの日本の医療を支えるという気概を持って、大きく羽ばたいて下さい。

さて、本日、皆様はすべての課程をみごと修了し、晴れて卒業を迎えました。しかし、これは決してゴールではなく、スタートです。皆さんはようやく医療人としてスタートラインに立ちました。皆様には、これまでの学び・培った経験があります。自信を持って前に進んでください。本学では、「いのちへの愛と畏敬」を学園の精神とし、「ひとによりそい幸せを希う」、これを基本理念としています。自信を失いそうになった時、心が折れそうになった時、医療人としての目的を失いかけた時、もう一度この思いを新たにすれば、苦境も必ず乗り越えることができることと信じております。そしてもうひとつ、「積極的に経験を積むこと。経験が多ければ多いほど、自分自身で考えて物事をやっていく自信につながる」。これは、昨年ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智さんが述べられた言葉です。研究者・科学者としての言葉ではありますが、医療人としての成長もまさにこの通りだと思います。受け身ではなく、積極的に多くの症例を実地で経験することが、次の症例への自信につながります。是非、心に刻んで頂ければと思います。

本学も10年目を迎え、皆様が築いてくれた礎をもとに、さらに10年、20年後を見据え発展しようとしています。皆様にはご迷惑をおかけしましたが新校舎も完成し、この4月からは臨床検査学科、作業療法学科、助産師専攻科が発足し医療系総合大学として益々の充実を図ってまいります。皆様がこれから医療人として成長していくと共に、我々もまた、皆様の母校として、皆様が誇りを持てる大学に発展させていきたいと考えております。そして、皆様の母校、森ノ宮医療大学の扉はいつでも大きく開いていることも忘れないでください。困難に直面された時、いつでも母校は皆様に寄り添います。今後の皆様の大きな飛躍と素晴らしい人生を祈念し、ご卒業のお祝いの言葉とさせていただきます。ご卒業、誠におめでとうございます。

平成28年3月12日

森ノ宮医療大学 学長 荻原俊男